



東松島市立赤井小学校 でめこん・教育相談便り 1月号

あかいつ子通信

【来年もよろしくお祈いします】

支援の心掛け「まみむめも」

- ① 待つだけではなく
- ② 見守り、寄り添って考える
- ③ 無理をさせないように
- ④ 目を行き届かせる
- ⑤ もう大丈夫…からが支援

1月に入ってから、あかいつ子は落ち着いた生活態度が感じられながらも、休み時間は元気いっぱい外遊びに興じたり、講堂で和太鼓練習に励んだりする姿が見られました。かぜやインフルエンザの拡大傾向が顕著な上、冷え込みも厳しくなってきたため、児童には体調管理がおろそかにならないよう、指導をしました。ぜひご家庭でも、お子さんの長期休業中の安心・安全な生活へのご指導をよろしくお祈いいたします。

1月のSC来校日

9日(木) 23日(木) 30日(木)

心配事は 小さなうちに 相談を

あかいつ子通信や各種学校からのお便りのバックナンバーはここから。



親子の小窓



第9回テーマは「**子供のサイン**」です。子供たちはその時の精神状況や、思春期等の発達段階においては、保護者や教職員に対し、**直接言葉に出して自分の状態を伝えることができなくなる**ことがあります。言葉には出なくても、**表情や行動、態度などを見逃さず、推測すること**で、抱えている悩みや不安、問題に対し、**素早く支援の手を差し伸べることが**できます。

下に注意して見守っていききたい子供たちのサインの例を掲載しました。冬休みが明け、新たな学校生活が始まった今だからこそ、お子さんの様子の変化が見られないか確認をしてみてください。もし気になることがあったら、これまでの「あかいつ子通信」で紹介した「傾聴」「受容」、聴き方「あいうえお」などの聴き方のスキルを活用しながら、**行動の裏にある、お子さんが本当に伝えたいことと向き合ってください**。お子さんにとって最も信頼できるのは、家族の方々です。**家族が「自分を見守ってくれている」「自分に向き合ってくれている」という信頼感**は、子供にとってとても勇気付けられることです。学校も家庭と歩調を合わせた指導をしていきますので、お子さんのことや子育ての悩みなど、気になることがあったらご相談いただければと思います。

お子さんに当てはまるような項目があったら「✓」を付けてください。

✓	お子さんの様子
	朝食のとき、表情が暗かったり、食が進まなかったりする。
	朝起きるのが遅くなり、ふとんからなかなか出てこない。
	着替えやトイレに時間が掛かる。
	登校時刻になると、頭痛、腹痛、発熱などを訴える。
	月曜日や休み明けなど、特定の曜日に学校に行きたがらない。
	夕方や休みの日になると、活動が活発になる。
	夜遊び、夜更かしが増え、朝起きられないことが多くなる。
	学校や勉強のことを言うと、ひどく不機嫌になる。
	部屋に閉じこもりがちになる。
	わざと憎まれ口をきいたり、嫌がることをしたりするようになる。
	友人関係に変化が見られる。

表のような様子の変化が見られるときは、お子さんには困っていることや悩んでいることがあるかもしれません。いつでも教職員やカウンセラーに相談してくださいね!



【11月の 生活・学習習慣アンケート結果 より】

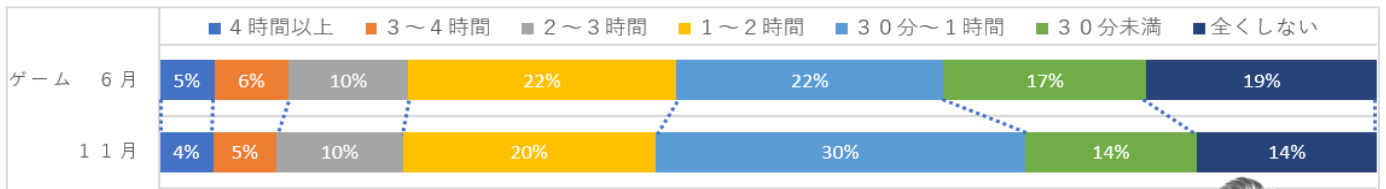
赤井小学校児童へのアンケート結果です。(数字は%を表します。)

A：当てはまる B：どちらかと言えば当てはまる C：どちらかといえば当てはまらない D：当てはまらない
A+Bの合計（前向きなアンケート結果）が前回（6月）より 増：青 減：赤

	A	B	C	D
①進んで運動をしていますか	65	17	12	4
②朝食を毎日食べていますか	80	11	6	2
③毎日同じ位の時刻に寝ていますか	56	31	7	4
④毎日同じ位の時刻に起きていますか	59	30	5	4

(アンケート未記入の児童は実数に入らないため、100%にはなりません。)

12月の懇談会で学年ごとに確認したのですが、全校分の生活に関する結果を確認すると上記のようになります。大きな差はなく、全項目で90%前後となり、変わらず高い意識で生活していることが分かります。



「ゲーム時間」に関しては、1時間未満の児童が増えました。SSWの石川先生に今回の調査結果についてお聞きしました。



教えて!石川先生 のコーナー

【I：回答者（SSW:石川先生） C：質問者（教務主任:千葉）】

C あかいつ子のゲーム時間の変容を見てどう思われますか？

I すばらしいと思います。はじめの調査から5か月が経過し、ゲームを新たに手に入れたご家庭もあるはずですが、その上で、ゲーム時間が1時間未満の児童の合計が58%もいる。実は、令和5年の宮城県全体の5年生の調査結果を見ると、32%しか達成できていないのです。ご家庭でゲーム時間についてしっかりご指導していただいている成果だと思います。

C なるほど。ゲームそのものがダメなわけではないのですね。

I そうですね。すべてダメ、なのではなく、保護者とお子さんがしっかり話し合い、約束事を作ってそれを家族みんなの力で守っていこうとするのが何より大事なのだと思います。実際に、学力は「ゲームを全くしない児童」と「ゲームを1時間未満しか行わない児童」では差がほとんどありません。しかし、1時間を超えると、超えた時間が長くなるほど学力が下がっていくことが分かっています。その上、東北脳科学研究所の川島隆太教授の研究では、ゲームをする時間の長い子供たちは脳の発達が遅れ、脳の多くの領域での発達が阻害されていることも分かっているのですよ。「ゲーム依存症」になることで自分の感情を押さえることができなくなり、きれたり、暴れたりすることもその一例なのです。

C 私が子供の頃から「ゲームは1日1時間」と言われていました。ルールを作ったら家族みんなで守り、できた時間で会話を楽しんだり、体を動かしたりと、豊かな時間の使い方もできそうですね。先日のPTA五役会で、相澤顧問から「子供と遊べる時間って、とても短い」という話を聞き、私も親として納得でした。子供との限られた時間を、大切に過ごしていきたいものですね。

